



MCデータプラス(渋谷区、瀧田晃一代表取締役社長)は14日、「建設サイト・シリーズ」のユーザーミーティングをオンラインで開いた。ゼネコンなど5社の担当者がワークサイト導入事例やデジタル化の取り組みを発表。1500人を超える参加者が情報を共有した。

瀧田社長「写真」は、

MCデータプラス

活用事例を紹介

「建設サイト・シリーズ」

「グリーンサイト、ワークサイトの提供に当たり『確かなデータで、未来をつなぐ』をモットーにしている」と話し、「データの正確性が最も重視するポイントだ」と述べた。その上で、「DXソリューションプロバイダーともオープンにデータ連携している。今後、金融サービスや調達サービスも展開したい」と話した。

奥村組のICT統括センターインベーション部長の稲垣考一氏が、建設サイト・シリーズの活用と今後の展開について講演。「地域や組織ごとに不統一なシステムを運用していたため、全社で情報共有ができなかった。これを建設サイト・シリ

ーズの基準に統一し、作業内容などの情報を一元化した」と述べた。その他、東急建設、大

和リース、前田建設工業、清水建設がデジタル化と建設サイト・シリーズの活用事例を紹介した。